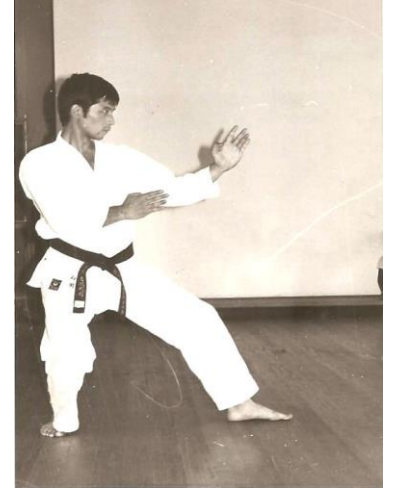


## 【 会員投稿 】

今回の会員投稿は、玄武館館長の 石関武司さんに登場いただきました。

石関さんは若くして「空手道」を志し、群馬県の空手家として、選手そして役員としても活躍されており、平成10年に「群馬県体育功労賞」を受賞されております。



「眼光鋭く、精悍な」若かりし頃の筆者

### 『空手道と私』

私が、昭和34年尾島町公民館で空手道を習い始めたころは、組織的にも技術的にも統合されたものではなかったが、昭和37年に東毛地区を中心に、群馬県空手道連盟が結成された。

昭和39年太田市体育協会への仮加盟により、今は取り壊してなくなってしまった大門の「しろみ館」で柔道・剣道の仲間たちと稽古が出来るようになった事が、大きな喜びであった。また、道場で剣道の指導をされていた、今は亡き古賀武一先生の稽古や指導方法は若い私にとって大変勉強になりました。

昭和40年 前橋市群馬会館で、県下各地域の各流派・会派の空手家が一同に集まり空手道の統一祝賀会（演武会）を開催。それを機に現在の群馬県空手道連盟結が結成された。

翌41年、第1回群馬県空手道選手権大会を開催し、以降当会は群馬県空手道発展のため、大きな役割を果たしてきている。そして平成27年に結成50周年祝賀会、記念誌を発行するに至っています。

### 『太田市における空手道大会』

太田市体育協会に仮加盟中であつた空手道も、昭和43年4月正式に加盟が承認された。同年12月若い私が会長の下で、第1回太田市空手道選手権大会が参加者76名の精鋭を集めて、盛大に開催された。来賓として出席いただいた太田市長・教育長・体育協会長・県空手道連盟理事長教育委員会関係者の見守る中で、太田市におけるスポーツとして空手道の1ページが開かれた。

そして平成28年度では、太田市民空手道大会の参加者は500人を超える規模となって、盛大に運営されています。

### 『今後の目標と課題』

関係者の努力の結果、44年から県民大会にも参加出来ました。56年の滋賀国体から空手も正式国体種目となり、県の武道国体の中で得点をあげています。

世界の197ヶ国以上で行われている空手道も2020年の東京オリンピックから正式種目になりました。このような大会に県市から選手が参加出来るように、今後も努力していきたい。



写真上 : 大会後選手と記念写真に納まる筆者  
(前列左から3人目)

## 競技会



写真左：玄武館館長の  
石関武司さん（筆者）

「今後ますますのご活躍をご祈念申し上げます」